

## 開館前だから伝えたい、NCACのコト。 The View of NCAC.

広報誌準備号 | vol.03 | 無料

長野市民会館は「長野市芸術館」として、生まれ変わります。その最新トピックスなどをこちらでお届けします。

vol.03 発行●2015年3月31日

発行元

一般財団法人 長野市文化芸術振興財団  
〒380-0801 長野県長野市箱清水 1-3-8  
TEL:026-219-3100 FAX:026-219-3110  
info@nagano-arts.or.jp

©本誌からの写真・文などの無断転載を禁じます

## Specialists' Interview on "The View of NCAC"

# 地方都市の公共文化施設に求められる“これからの”カタチとは。

「長野市芸術館」への期待を、文化芸術のスペシャリストに聞きました。



Voice  
from  
レコード会社

レコーディングは断然、地方のホール。  
日本コロムビア株式会社 制作ディレクター／横田悠生さん

1910 (明治43)年、日本蓄音器商會として始まった日本コロムビア。日本の録音技術とともに今なお多くの名作をリリースするレコード会社です。その日本コロムビアで、クラシック音楽を中心に、CD制作のディレクターとして活躍する横田さんからのボイス。

— CDの制作において、アーティストによる演奏などのレコーディングは、音楽スタジオだけではないそうですね。  
はい。特にクラシック音楽は音楽ホールでのレコーディングが多いのです。大規模なオーケストラ、小規模編成のもの、またはソロ演奏なのかによって、選ぶホールの規模も変わります。そこに、希望する残響音などのほか、アーティストからの希望、環境などさまざまなことを加味して、条件に満ちた場所を選びます。



横田 悠生 YUKI yokota

日本コロムビア株式会社にて、主にクラシック音楽のCD制作でディレクターを務める。最近リリースに携わった作品は、朴堯姫(バク・キョヒ)「Saudade-ブラジルギター作品集」、小林沙羅「花のしらべ」、上野耕平「アドルフに告ぐ」、岡幸二郎 with 日本フィルハーモニー交響楽団「ベスト・オブ・ミュージカル」など。



— 都心と地方では、レコーディングする場所として、どちらが多いのですか？  
断然、地方のホールが多いです。それは、アーティストが集中してレコーディングできる環境を整えやすいから。例えば、連日に渡るレコーディングは、都内のホールよりも押さえやすいし、その地にアーティストが泊まり込むことになるので、レコーディングに集中しやすい場合もあります。もちろん、アーティストによりますが。

— 長野市芸術館も含め、地方でのレコーディングで求められることとは？  
そのホールの設備や利用料金という我々制作サイドからの現実的な部分は当然挙げられますが、なによりも大きいのは「環境」です。アーティストがいかに気持ちよくレコーディングできるかが大切。例えば、自然が豊かで、気持ちよく過ごすことができるロケーションだとか、あるアーティストは温泉旅館を宿泊施設として利用することで、都内でのレコーディングよりもストレスを軽減することができました。また、その地ならではのおいしい食事は生き生きとさせてくれますよね。そして何よりも、収録地としてその場所の価値を上げられたらと思っています。そういった点で、長野市には大きな期待を寄せています。

全国には、本当にたくさんの公共文化施設があり、その数はなんと約3000館とされています。個性的な芸術監督が活躍するところ、地域に住む人たちと一緒に公演を創り続けるところ、はたまた公演会場として利用しやすい工夫しているところ……。今回は、文化芸術の各ジャンルのスペシャリストの方々をインタビューしました。地方都市だからこそ、長野市だからこそ、そして、これからできる長野市芸術館だからこそ期待したいことをクローズアップ。



Voice  
from  
クラシック音楽専門誌

長野市という環境ならではの楽しみを。

『音楽の友』編集長／今橋学さん

1941年(昭和16年)創刊、クラシック音楽の老舗雑誌と言えば、音楽ファンならずとも一度はその名を聞いたことがある月刊誌「音楽の友」。世界一流のマエストロやアーティストの取材から、日本全国の公演情報までをまとめる編集長の今橋学さんに、クラシック音楽界の現状から見てくる長野市芸術館への期待とは。

— 長野市芸術館の久石芸術監督は就任時から「クラシック音楽が日常に根ざすきっかけづくりをしたい」と意欲を示しています。クラシック音楽界の現状からお聞かせください。

今、学校の授業からも音楽の時間が減り、子どもたちがクラシック音楽と接する機会が希薄になってきています。子どもたちにとって、クラシック音楽が以前より身近でなくなり始



今橋 学 MANABU imahashi

クラシック音楽を「聴く・演奏する・もっと知りたい」人のための総合誌「音楽の友」編集長。国内外のクラシック音楽の情報を雑誌で紹介するほか、定期的に読者イベントを主催(※株式会社音楽之友社には「音楽の友ホール」という音楽専門のホールがある)、またラジオのクラシック番組の出演など多忙を極める。



めているんですね。実は音楽家もそのことを危惧しており、また焦って見ます。久石芸術監督は、映画音楽とともにクラシック音楽のエキスパートでもいらっしゃる。クラシックオンラインではない、他ジャンルの音楽との共通の基盤に立られています。それは将来のクラシック愛好家を育てる、クラシックの良さを次世代につなぐ重要な立ち位置で、非常に頼もしくもあり、喜ばしくも感じられます。ですから「長野市で何が始まるんだろう!」と注目しています。

— 長野という環境でクラシック音楽を楽しむということ、どうお考えですか？

長野県は松本市や軽井沢町などで行われている夏の音楽祭が際立っていて、リゾートでリラックスして音楽を楽しめるところというイメージがありますが、そこに「長野市芸術館」ができ、新しいホールの持つ豊かな響きを味わい、楽しむこともできるようになるんだろうなと期待しています。長野市へは東京や、いまや北陸からも新幹線で夕方出かけて、公演後には家に帰ることができます。もう北関東と同じ圏内であり、大宮ソニックシティや彩の国さいたま芸術劇場に行く感覚で、多くの首都圏の音楽ファンも足を運ばれるのではないのでしょうか。楽しみです。



Voice  
from  
劇場

街のみなさんと一緒にワクワクしたいですね。  
座・高円寺 企画・広報／森直子さん

東京都杉並区の劇場「座・高円寺」は、開館して7年目。「街の広場」というスタンスで、高円寺に暮らす人たちが街そのものとじっくり「同居」する劇場として広く知られています。そんな「座・高円寺」で企画・広報を担当している森直子さんにお聞きしました。

— 街の文化施設として、大切にされていることは何ですか？  
地域のみなさんとのコミュニケーションです。たとえば「劇場の」商店街の」と総体で呼び合うのではなく、劇場スタッフも街の皆さんもそれぞれが、互いに顔のわかる関係になる。その努力を重ねて、今、高円寺では、みんなが街を育てる仲間になることを目指しながら、劇場が作った舞台作品を季節ごとに楽しみ、地域のお祭りを盛り上げています。

— 劇場が発行するフリーマガジン「座・



高円寺」も、街のおもしろいことをテーマ毎に紹介していて、高円寺のカルチャーが見え

てくるような興味深い内容ですね。劇場の広報誌として、公演や事業を紹介しようとするほど、伝えたいことの本質から遠ざかっていくような気がしました。だったら、まずは誰にでも手に取ってもらえる媒体にしよう。「高円寺、面白い」、更に「このマガジンを作っている座・高円寺ってどういう劇場?」という風にならるといいな。今は地域のみなさんにも「次の特集は何?」と楽しみにしていただけるようになりました。

— 街として、杉並区と地方都市である長野市とは大きな違いがありますが、だからこそ、長野市芸術館ができることって何だとお考えですか？

長野市には観光でたくさんのお客さまが訪れますよね。街のおもてなしとして、この地を訪れた方に「人」の記憶をお持ち帰りたい。ただけるようなサプライズを、町のみなさんと長野市芸術館が一緒になって考えるなんて、ちょっと遊び心も誘われてワクワクしませんか。地域の方を巻き込めるというのは、公共文化施設ならではの強みでもあり、役割でもあります。長野市のみなさんが「我が家」のように劇場を考えられるといいなと思います。

森直子 NAOKO mori

東京都杉並区高円寺にある劇場「座・高円寺」の企画・広報担当。演劇集団「NOISE」、世田谷パブリックシアターを経て、座・高円寺の立ち上げから携わる。街とのコミュニケーションを大切にしながら、劇場の在り方を模索し続ける。同劇場が発行するフリーマガジンは、劇場の立場で街を切り取る独自の視点で各界で評価を得ている。





# 2015年のラインナップを発表!

来年5月の開館に向けたプレ・オープニングイヤーとして、今年は、さらに賑やかなラインナップをご用意しました。大きな目玉は2つ。ひとつは7月に開催する「ロシア・バレエ トップダンサーたちによるバレエ・グラン・ガラ」。「ガラ公演」とは大勢のスターが、数々の有名な演目を代わる代わる共演する贅沢なステージのこと。もうひとつは、10月に開催する演劇「父よ!」。作・演出は近年、岸田戯曲賞の候補にも挙がる若手期待の劇作家・田村孝裕、出演は舞台のほか、映画やテレビでも活躍する俳優・平田満、ベンガルほか、小劇場演劇界の名優が揃います。



世界屈指のトップ・バレエダンサーたちが  
長野に集まる特別な一日!

## ロシア・バレエ トップダンサーたちによる バレエ・グラン・ガラ

7月23日(木) ● 19:00開演

- ホクト文化ホール(長野県県民文化会館)大ホール
- S席:5,000円 A席:4,000円 B席3,000円(全席指定)
- Nチケ会員先行発売4月1日(水)～  
一般発売4月4日(土)～

【プロデューサー・演出・ダンサー】田北志のぶ(キエフ・バレエ、ウクライナ功労芸術家)  
【舞台監督】アラ・ラゴダ(キエフ・バレエ コレオグラファー)  
【ダンサー】マリア・アラシュ(ボリショイ劇場)、アレクサンドル・ヴォロコフ(ボリショイ劇場)、アレクサンドル・ザイツェフ(元ボリショイ劇場、元シュツトガルトバレエ)、イーゴリ・コルブ(マリンスキー劇場)、アンドレイ・エルマコフ(マリンスキー劇場)、エレナ・エフセワ(マリンスキー劇場)、ブルックリン・マック(ワシントン・バレエ)、オサレ・シャイターノフ(キエフ・バレエ)  
【特別出演】二山治雄(白鳥バレエ学園) 2014年ローザヌ国際バレエコンクールにて優勝!

小劇場演劇の名優がズラリ! 絶妙な掛け合いを臨場感あふれる空間で!

## 演劇「父よ!」

10月17日(土) ● 14:00開演

- 長野市松代文化ホール ●全席指定:3,600円
- チケット発売日:7月予定



【作・演出】田村孝裕  
【出演】平田満、ベンガル、徳井優、花王おさむ、井上加奈子

【演出紹介】  
「黄昏の四兄弟に明日はあるのか?」  
男ばかりの四兄弟が実家に集まり、父親の面倒を見る見ないでやりあう姿を描いた、笑いと哀しみが同居するハートウォーミングな演劇作品です。ベテラン俳優陣の競演をお楽しみください。

# 門前町から 文化芸術を 考える。

## 門前文化談義

善光寺のお隣元・門前町の魅力をあたらためて探り発信するパネルディスカッション「門前文化談義」。3月15日に、善光寺大本願にて第2回が開催されました。テーマは「北陸新幹線で結ぶ文化と芸術」。



3都市の文化芸術へのアプローチや市民との連携について、表層的でない、深い意見交換が具体的にできてコーディネーターとしても楽しめました。長野市芸術館には、ぜひ地域の創造拠点としての役割を期待します。



パネリストは、金沢市民芸術村村長の普照豊さん、上田サントミュージゼ舞台技術監督の馬場道雄さん、当財団の企画運営マネージャー・栗田康弘の3名。施設の性格は違えど、ホールや稽古場が芸術や文化による街づくりの拠点として機能するべきという視点は3館とも共通しており、70名ほどの参加者のみなさんもうなずいていました。



石川麻江さん  
SHIKAWA 地域文化企画室 代表

## Handweaving a Stage Curtain

# どん ちょう 緞帳、 手織りにて 製作中。

## 現在の様子を見学

長野信用金庫さんより寄贈いただく新しい芸術館の「緞帳」。幅22m×高さ9.5mという大きな幕を、京都の職人さんが今なおハンドメイドにて丹精込めて織っています。その製作過程を見学してきました。



製作しているのは、京都府京都市にある株式会社川島織物セルコンの市原事業所。同社は天保14(1843)年創業、かつての皇室御用達国内企業第一号を賜るなど、高い技術と伝統を併せ持った老舗です。まさに昔話の「つるの恩返し」に出てくるような織機! 大ホールを飾る日が今から待ち遠しいです。

緞帳(どんちょう)って?  
客席と舞台の間において、夢幻世界へ誘い、また現実世界に引き戻してくれる幕。

# ロゴマーク、 応募1071 作品より。

## 堂々の発表です

昨年末に、長野市が一般公募した長野市芸術館のロゴマーク。市芸術館ロゴマーク選定委員会によりこちらに決定いたしました。今後ずっと使われるロゴマーク、いろんなところでお目見えますのでひとつお見知りおきを!



制作者/渡辺 岳さん(京都府京都市在住)

Naganoの頭文字「N」とArtsの頭文字「A」をモチーフに、長野市芸術館のコンセプトである『育む・楽しむ・創る・つなぐ』を4本のラインでつくっています。そのラインは、拠点施設である長野市芸術館から、人やまち、空間を伝播していく波動のイメージと、長野の豊かで壮大な山脈をイメージしてできています。また、「この場所、この地だからこそ生まれるデザイン」を心がけて制作致しました。長野という地で、独自で唯一な文化芸術が推進していくことを、心より楽しみにしております。

## Bookmark our Site!!

# ウェブで 最新情報を チェック。

## 公式ウェブ、できました

公式ウェブサイトは、昨年11月の開設から更にバージョンアップ。ウェブ限定のチケット購入や公演情報をメルマガで手に入られる会員制度「Nチケ会員」もスタートしました。まずはブックマークをどうぞ。

## 長野市芸術館

公式ウェブサイトでは、最新トピックのほか、年間のイベントカレンダー、久石譲芸術監督の紹介、こちらのプレ広報誌や施設紹介のダウンロードなどが可能です。

## Nチケ会員

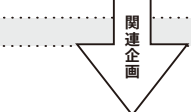
※「Nチケ会員」は「NCAC チケット会員」の略称です。  
「Nチケ会員」では、ウェブ限定ならではの特典を3つご用意しました。入会・会費は一切無料です。

- 長野市芸術館などで開催される公演チケットの購入が24時間可能!
- 会員のみご利用いただけるチケット先行予約販売あり。お好きな席をお手軽に!
- 公演情報をメルマガでいち早くお届け!(ご希望の有無をうかがいます)

お申込みは、  
長野市芸術館 公式ウェブサイトにて!



公式 facebook ページも継続中。開館前だからこそ伝えたいトピックスを中心に、プレ事業などの情報を随時更新しています。



トップダンサーから、  
レッスンを受けられる。

## スペシャル・ バレエ・ ワークショップ

7月19日(日) ●  
13:00スタート

- 長野市生涯学習センター 大学習室2・3
- 中級・上級クラス:各3,000円  
コンテンツクラス:2,000円  
(要問い合わせ)



小ホールBの特性や使い方を知り、  
みんなでこけら落とし事業を考えてみませんか。

## クリエイション・ミーティング4DAYS

【4回連続講座/各回共】 19:00~21:00/無料・要申込  
●長野市生涯学習センター 大学習室3

- 第1回 『小ホールB、何ができる?』  
2015年4月17日(金)
- 第2回 『まちとホールをつなぐ』  
2015年6月5日(金)
- 第3回 『明日の担い手の育成』  
2015年8月6日(木)
- 第4回 『公演をとりまく環境』  
2015年9月25日(金)



大好評のアウトリーチプログラム。  
みなさんの街に、プロの生演奏をお届けします。

## 音楽キャラバン 2016

2015年5~11月/全30公演(予定)/無料(非公開公演あり)

特別招聘アーティストによる音楽キャラバンEX  
西山まりえ ヒストリカル・ハープリサイタル  
2015年5月23日(土) 16:00開演  
長野市立博物館プラネタリウム(要入館料)



## NCAC 音楽大学

【各回共】 14:00~/1回券500円、4回セット券1,800円(全席自由)  
●ホクト文化ホール 小ホール  
●Nチケ会員先行発売4月1日(水)～  
一般発売4月4日(土)～

- 1時限目 『ベートーヴェン入門』  
～「運命」の聴き比べをもとに～  
2015年5月31日(日)  
講師:柴田克彦(音楽ライター/音楽評論家)
- 2時限目 『バレエ音楽はこうして書かれる』  
～舞踊音楽の歴史とともに～  
2015年7月18日(土)  
講師:加藤昌則(作曲家/ピアニスト)
- 3時限目 『ピアニスト山本貴志とコンクールの覇者たち』  
～ベテランから注目の新人まで～  
2015年9月19日(土)  
講師:伊熊よし子(音楽ジャーナリスト/音楽評論家)
- 4時限目 『クラシックとは何か』  
～クラシックとポピュラーはいつから分かれたのか～  
2015年11月15日(日)  
講師:吉成順(国立音楽大学教授/音楽社会史)



- 都合により内容が変更となる場合がございますので、ご了承ください
- 料金表示は、すべて税込みです